



合唱指揮者 **藤森 徹**

Chorus Meets & Ensemble Spicy ジョイントコンサート実施報告

この難しい状況下ではありますが、10月4日に名古屋市瑞穂文化小劇場(349席)において2団体による1時間程度のコンサートを行いました。

なんとかコンサートができないかと模索しだしたのが6月ごろ。7月ごろから対面での練習がはじまり、チラシをつくり宣伝をはじめたのが9月入ってから。感染拡大状況が小康状態となるこの時期しかないという思いもあり、選曲もすべて見直し、対策を考えながら進めました。(直前までほんとうに悩みましたが)



感染防止対策

お江戸コリアーズさんの実証実験や、各種音楽関係団体の対応、連盟や名古屋市のガイドラインを参考にしました。お客さまへのお願い事項を作成し、それを守っていただくとともに、当日は目に見えるところから、目に見えないところまで様々な対策をしました。

人が溜まる可能性のある点をでき得る限り排除する、という観点で進めましたが、お客さまも非常に協力的で、混乱なく進めることができました。これまでのコンサートと比較してやることは多くなりますが、方向性をしっかり決めればやれると確信しました。

ステージ上での感染対策についても、ステージの広さを活かし、以下のような対応で臨みました。

- ・高さの差をつけないように山台は無し
- ・ピアノを歌手の後ろに配置し、飛沫がピアニストに届かない並びに
- ・横1m、前後2mを確保
- ・本番のみマスクを外して演奏



対策は、わかりやすく、守りやすいことが重要です。そして、練習時から本番を見据えて団員を慣らしていき、意識を高めていったことも功を奏したと考えています。

コンサートを終えて

久々のホールにメンバーが興奮し、とても嬉しそうにしていたのが印象的でした。

リモートで行う練習、距離を取って換気しながら行う練習、というものも新しい価値観をたくさん教えてくれ、必要な時間でありましたが(そこでしか得られないものもたくさんありました)、この日はホールという非日常の空間が特別なものであるということを改めて実感し、ホールにいられることの喜びが溢れていました。



ぜったいに安全という対策は現状では存在しませんが、得られる限りの情報を集め、リスクがどこにあるのかを徹底して考えて検証することで、可能な限り安全性を高めてコンサートを実施することはできるのではないかと考えています。

Chorus Meets

Ensemble Spicy

混声合唱のための ゆっくりしていったね
作詩・作曲 森雄太

混声合唱曲集 合唱コーラス
詩 詠み人知らず 作曲 森雄太
(Twitterにおける募集ネタによる)

他

ピアノ 谷口未怜
指揮 藤森徹

はたおりむし
なまずのふるや
他2曲

谷川雁 詞 新実徳英 作・編曲

A Boy and a Girl
Eric Whitacre / Octavio Paz

他

指揮 藤森徹

この詩のように、合唱を愛する皆様が自分の手でそれぞれの未来を掴んでいけるよう、願ってやみません！

【藤森 徹 Fujimori Toru Profile】

愛知県生まれ。'05年名古屋大学大学院生命農学研究科修了。大学から合唱をはじめ、在学中から学生団体だけでなく複数の合唱団で活動。

卒業後はサラリーマンをしつつ合唱を愛好していたが、13年ほど働いたところで道を大きく踏み外し、大阪芸術大学音楽科の通信課程で音楽を学びなおす(2020年度卒業予定)

合唱指揮を、松原千振氏に師事。また、大谷研二('00~'01年愛知、'18年広島)、松原千振('15年広島)、Brady Allred('16年東京)、Szabo Denes('18年ハンガリー)各氏の指揮法講習やマスタークラスに参加。また、歌い手としてMusikEngel合唱団、合唱団MIWO、アンサンブルVINE、Ensemble Vitoi、Japan Chamber Choir、AZsingers等に所属している。愛知県合唱連盟理事

最後に、この日の演奏と対策の詳細等を書いた記事のリンクを下に示します。よろしければご覧ください。



今しかできない、今だからこそその曲を集めて

プログラムは、コロナ禍で作曲された作品など、今しかできない、今だからこそ、というものになりました。そのおかげか、お客さまからたくさんの感謝や、勇気をもらったとの言葉を頂くこともできました。

人数の多い団体であれば、乗り越えなければならない壁がさらに多くなりますが、演奏者と聴衆が同じ空間で音楽を共有できる時間を少しずつでも作っていけるように、これからも活動していきたいと思えます。

アンコールでは、「未来」(詩 谷川俊太郎、曲 高嶋みどり)を演奏しました。

青空にむかって僕は竹竿をたてた
それは未来のようだった

【演奏動画】 <https://torufujimori.amebaownd.com/posts/10623421>

【対策の詳細等】 <https://torufujimori.amebaownd.com/posts/10624383>

新型コロナウイルスの実物を使ったマスクの有効性実験

東京大医科学研究所の河岡義裕教授(ウイルス学)や植木紘史特任助教らのグループが「実物」の新型コロナウイルスとマネキン人形を使った実験でマスクの効果を調査し、米国微生物学会発行の“mSphere”に投稿しました。



実験では二つのマネキンの頭部を向かい合わせ、ウイルスを含む飛沫とエアロゾルを軽い

きのように吹き出させる方法で、医療用N95マスク、サージカルマスク、綿の布マスク—の3種類を比較しています。

いずれのマスクも、ウイルスの感染性液滴/エアロゾルの伝播に対して保護効果があり、ウイルスプレッダーがマスクを着用した場合に保護効率が高くなりました。

一方、サージカルマスクとN95マスクは、完全に密閉されていても、ウイルスの飛沫/エアロゾルの伝播を完全にブロックすることはできず、医療従事者がマスクの適切な使用法と性能を理解し、身を守るための判断材料にして欲しいとしています。

これらの実験はあくまで基礎的なデータを提供するもので、実際の人込みなどの現場にそのまま当てはめることはできないと思います。このことはスーパーコンピュータ「富岳」のシミュレーションやその他の様々な実験データについても同じことで、これだけをとって確定的なことは言えないでしょう。